

スリランカ：スリランカ国会議員の権限に関する情報

スリランカの「スリランカ国会議員の権限」に関する調査依頼に対し、難民研究フォーラムが規定の時間的制約の中で調査したところ、関連しうる情報として以下の情報が見つかりました。

略称：	1
1. スリランカの国会議員の法律上の権限等について	1
2. スリランカの国会議員の事実上の権限等について	4
(1) 国会議員の不祥事に対する捜査機関の対応	4
(2) 国会議員の不祥事に対する政府や司法機関の対応	5
3. スリランカの政治権力とスリランカ軍の関係性（指揮・命令系統など）	7
(1) スリランカ政府と国軍の関係	7
(2) 大統領による現役／退役軍人の政府要職への任用	9
(3) 政府による戦争犯罪容疑の軍人の保護	10
4. スリランカの国会議員がスリランカ軍に及ぼせる法律上または事実上の影響力の有無	11
参照：	12

略称：

ACCORD	オーストリア出身国・庇護研究ドキュメンテーションセンター
CIA	米国中央情報局
DFAT	オーストラリア外務貿易省
HRW	ヒューマン・ライツ・ウォッチ
OFPRA	フランス難民・無国籍庇護局

1. スリランカの国会議員の法律上の権限等について

ア スリランカ国会「[議会の立法権](#)」（2022年5月23日閲覧）

1978年憲法の条文

4条(a) 国民の立法権は、選挙で選ばれた国民の代表で構成される議会及び国民投票によって、これを行行使する。

75条 国会は、遡及的効力を有する法律および憲法の廃止または改正を含む法律を制定する権限を有する。

76条 国会は、その立法権を放棄し、又はいかなる方法によってもこれを譲り渡

すことができず、また、第76条第2項第3号及び第4号の規定に従って、いかなる立法権をも有する機関をも設置してはならない。

152条 国会規則 133条 - 連結基金または共和国のその他の基金に課される費用を認可または課す法案または動議、あるいは税金の賦課、廃止または削減する法案は、閣議の承認を得た大臣によってのみ提出されなければならない。

イ 法律「[スリランカ社会民主共和国国会（権限及び特権）法](#)」（1999年12月31日までの改正）（スリランカ国会ウェブ）

第1部 一般的な特権、免責及び権限並びに附則

4. 議員は、国会において発言した事項又は請願、法案、決議、発議その他により国会に提出した事項を理由として、民事又は刑事手続、逮捕、投獄をされずあるいは損害賠償の責任を負わない。
5. 議員は、この法律に違反する場合を除き、国会の会議または議場に行き、出席し、または帰ってくる間、いかなる債務または民事訴訟の対象となりうる事項に関しても、逮捕、拘禁または虐待をされない。
6. 何人も、国会の権限及びその法的権限の範囲内で行われた行為について、損害賠償その他の責任を負わない。
7. 議会およびその構成員は、この法律により与えられる特権、免責および権限に加えて、イギリス議会下院およびその構成員が当分の間保持し、享受し、行使するのと同様の免除を保持し、享受し、行使するものとする。
- ...
9. 議会のすべての特権、免除および権限は、スリランカの一般法および公法に含まれるものとし、これを請求する必要はないが、スリランカのすべての裁判所において、司法的に告知されるものとする。

ウ Inter Parliament Union [「スリランカ国会」](#)（2022年5月23日閲覧）

免責事項、便宜、サービス

- ・外交パスポート
- ・基本給（憲法68条も参照）：年26万5,000ルピー
 - +追加手当：一会議500ルピー
 - +娯楽手当：月1,000ルピー
 - +燃油手当：月7,500ルピー
 - +携帯電話手当：月2,000ルピー
 - +運転手手当：月3,500ルピー
- ・議員としての全給与の非課税

- ・年金制度
- ・団体保険制度
- ・その他の便宜
 - (a) 秘書（憲法 68 条も参照）
 - (b) 助手
 - (c) 事務用品
 - (d) 官給宿舎
 - (e) 警護
 - (f) 郵便と電話サービス
 - (g) 移動とパスポート

...

議会免責 - 議会の非説明責任

- 概念は存在する（憲法第 67 条、国会（権限及び特権）法（1953 年第 21 号）第 3 条、第 4 条、第 7 条）。憲法 67 条、国会（権限および特権）法（1953 年第 21 号）の第 3 条、第 4 条、第 7 条）。
- 議会の説明責任は、国会議員による発言や執筆、議会内での投票に限定されている。
- 例外：犯罪または侮辱（スリランカ民主社会主義共和国国会規則の 72 条、77 条、84 条（viii））、国会の規則または命令に従わない場合の特権侵害（議会（権限および特権）法第 2 編および別表、1953 年第 21 号、国会規則第 78 条）（スリランカ民主社会主義共和国議会常務理事会規則第 72 編および別表、1953 年第 21 号、議会（権限および特権）法第 2 編、1953 年第 21 号）。国会規則第 78 条）（両者については、懲戒を参照）。
- 説明義務なしは、職務権限が開始された日に発効し、職務権限の行使中に表明した意見に対する訴追からの保護を、職務権限の満了後に提供する。

議会免責 - 議会の不可侵性

- この概念は存在する（憲法第 67 条、同第 5 条（1）、同第 7 条）。憲法 67 条、国会（権限および特権）法（1953 年第 21 号）5 条 1 項および 7 条）。
- この概念は民事訴訟のみに適用され、すべての犯罪を対象とするが、国会議員を逮捕や拘留から保護するのみ。
- 例外は認められていない。
- ただし、下院または委員会における手続きの証拠は、下院の許可を得なければ提出することができない（国会（権限および特権）法、1953 年第 21 号、第 17 条）。
- 保護は会期開始の 40 日前から、議会の剪定または解散の 40 日後まで行われる。議会不可侵は司法手続き一般を対象としていないため、選挙前に国会議員に対して行われた司法手続きは対象外となる。

- 議会の免責（不可侵性）は解除することができない。
- 国会は、起訴および/または勾留に一定の条件を付すことはできない。
- 国会は、議員の1人の起訴および/または勾留を停止することはできない。
- 予防拘禁または禁固刑の場合、関係する国会議員に議会の議場に出席する権限はない。

2. スリランカの国会議員の事実上の権限等について

(1) 国会議員の不祥事に対する捜査機関の対応

必ずしも不祥事に関係しているものではないものも含め、国会議員に対する警察など捜査機関の対応として、次の情報が見つかりました。

ア [OFPPRA「組織犯罪と政治家の関係 \(Relations entre le grand banditisme et les politiciens\)」](#) (2018年8月29日)

1.2. 麻薬密売と政治的スポンサー

...

H・M・G・B・コタカデニヤ [H.M.G.B. Kotakadeniya] 元上級副警視総監は、2018年6月、サンデー・タイムズ紙とのインタビューで、法執行の悪化と犯罪の増加は、主に政治的な干渉により警察が職務を遂行できないことにあると述べた。また、独立しているはずの国家警察委員会が、その委員もそのような干渉に依存しているため、干渉を止めるために率先して行動していないと付け加えた。同氏の見解では、犯罪と戦うことができる唯一の機関は、タミルイーラムの解放の虎 (LTTE) と戦うために設立された警察のエリート部隊である特別任務部隊 (STF) である。
〔脚注15〕

※ 原文はフランス語。訳文は、DeepL.com (無料版) の翻訳後に、修正したものです。脚注の詳細は原文を確認してください。

イ [記事「スリランカが分離派反乱勢力の記念を祝ったとの理由でタミル人国会議員を逮捕」](#) AFP via Aljazeera (2021年9月24日)

スリランカの警察は、ゴタバヤ・ラジャパクサ大統領が民族間の和解を呼びかけた数時間後に、少数民族コミュニティのために活動し死亡した分離主義者の反政府勢力を追悼したタミル人国会議員を逮捕した。

...

ウ [記事「スリランカがイースター襲撃事件を理由に、ラシャド・バチウディン議員とその兄弟を逮捕」](#) NDTV (2021年4月24日)

スリランカの警察は。土曜日、捜査の迅速化を求める圧力が高まる中、279人を

殺害した2019年のイースター・サンデー襲撃事件に関連して、イスラム教のトップリーダーや国会議員を逮捕した。

刑事らは、全セイロンマッカル党〔All Ceylon Makkal Party〕のリーダーであるラシャド・バチウディン〔Rishad Bathiudeen〕の身柄をテロ防止法（PTA）に基づき拘束したと、警察報道官のアジス・ロハナ〔Ajith Rohana〕は述べた。

…

エ [記事「スリランカ警察が資金をめぐる疑惑で元リーダーの兄弟を逮捕」Reuters](#)
(2016年7月18日)

スリランカの金融犯罪警察が、月曜日、マヒンダ・ラジャパクサ前大統領の弟を、彼が経済開発大臣だったときの国家資金不正流用の疑いで3度目の逮捕したと、弁護士が述べた。

…

オ [記事「スリランカ野党が元將軍の逮捕に怒り爆発、抗議を呼びかけ」CNN](#) (2010年2月10日)

1月の選挙でラジャパクサ氏の対抗馬として立候補したサラト・フォンセカ退役大將は、政府転覆とライバル暗殺の共謀容疑で月曜日の夜に逮捕された。その後、ラジャパクサは、火曜日、新たな議会選挙に向けた一歩として、議会を解散すると発表した。

このほか、178の諸国の国会が参加（2022年6月1日時点）するInter-Parliament Union (IPU) は、スリランカで不当に逮捕された国会議員の一覧を背教情報とともに公表しています。

カ [Inter Parliament Union 不当に逮捕された国会議員一覧 \(2021年11月30日現在\)](#)

LKA-77 – Rishad Bathiudeen
LKA-78 – Ranjan Ramanayake
LKA-49 – Joseph Pararajasingham
LKA-53 – Nadarajah Raviraj
LKA-63 – D.M. Dassanayake
LKA-69 – Sivaganam Shriritharan
LKA/61 - Thiyagarajah Maheswaran

(2) 国会議員の不祥事に対する政府や司法機関の対応

また、不祥事に関与した国会議員への政府や司法機関の対応として、次の情報が見つかりました。

ア 米国国務省「人権状況報告 2021年 - スリランカ」 (2022年4月12日)

a. 恣意的な生命の剥奪および違法な又は政治的に動機づけられた殺人

...

6月24日、大統領は、2011年に地方選挙中に同じスリランカ自由党 (SLFP) のバラタ・ラクシュマン・プレマチャンドラ [Bharatha Lakshman Premachandra] 議員を殺害した罪で2016年に死刑判決を受けた元スリランカ自由党 (SLFP) 国会議員ドゥミンダ・シルバ [Duminda Silva] に大統領特別恩赦を出した。シルバの特赦は、不当に有罪判決を受けたという主張に基づき、2020年に100人以上の政府系国会議員が彼の恩赦を求める嘆願書に署名したことを背景にしている。7月16日、大統領はシルバをマヒンダ・ラジャパクサ首相 (都市開発・住宅相) の管轄下にある国家住宅開発庁の長官に任命した。

セクション4. 政府の汚職と透明性の欠如

法律は、当局者の汚職に対する刑事罰を定めているが、政府は同法を効果的に運用しなかった。2021年、政府の汚職に関する報道が数多くなされた。

汚職: 汚職は、政府の最高幹部のものも含め、依然として重大かつ継続的な問題であった。国際的な企業では、通関手続きから政府調達に至るまで、賄賂の要求が頻繁に報告されていた。

8月6日、1万5,000ルピー (74ドル) の賄賂を受け取ったとして労働現場当局者2名に対して起こされた事件を却下する判決が下されたが、コロンボ高等裁判所の判事の一人が、賄賂・汚職疑惑調査委員会 (CIABOC) は政治家に対する事件を技術的な根拠に基づいて取り下げ、彼らを優遇しているが、一般人に対する事件に対しては CIABOC は同じアプローチをとっておらず、これは明らかな差別だと表明したことが新聞で報じられた。前政権在任中の政治的犠牲の疑いを調査するために2020年1月に任命された PCoI は、3月9日に国会に提出した最終報告書で、裁判所に係属中の40件近い贈収賄・汚職事件を政治的被害の事件と認定して取り下げを勧告した。バチェレ高等弁務官は、第46回国連人権委員会の報告書で、PCoI が「いくつかの著名な人権・汚職事件に関連する警察の捜査や裁判を弱体化させた」と指摘した。

イ DFAT「出身国情報報告 スリランカ」 (2021年12月23日)

政治的被害に関する大統領調査委員会

2.43 2020年1月、ラジャパクサ大統領は、過去にスリランカ警察などが行った同政権関係者に対する捜査の一環として発生した、いわゆる「政治的被害行為」

を調査するため、政治的被害に関する大統領調査委員会（PCOI）を設立した。国内外の人権オブザーバーは、PCOIを、2015年から19年にかけて前政権が始めたラジャパクサ大統領の親族や同盟者の「調査を頓挫させる」ための仕組みとみなしている。

2.44 スリランカ弁護士会は、閣議決定されたものの公表されていないPCOIの報告書が「この国の法の支配を損ない、司法の独立性を損ない、検事総長の公平で効率的な機能を侵食する恐れがある」と述べている。OHCHRは、政府のPCOIが「人権や汚職に関連するいくつかの有名な事件において、警察や司法を弱体化させる効果があった」と指摘している。ヒューマン・ライツ・ウォッチによると、これらの事件に共通するのは、警察が法廷で提出した証拠が、ゴタバヤ・ラジャパクサ大統領とその家族・同盟者を暗示していることである。他の勧告の中で、PCOIは、スリランカの裁判所で係争中の約75の事件（すべてラジャパクサ家のメンバーまたはその忠誠心に何らかの形で関連している）を、事件が政治的被害者であるという理由で撤回するよう勧告している。

3. スリランカの政治権力とスリランカ軍の関係性（指揮・命令系統など）

(1) スリランカ政府と国軍の関係

ア CIA「[ワールドファクトブック - スリランカ](#)」（2022年5月23日閲覧）

軍および治安部隊

スリランカ陸軍（国家警備隊〔the National Guard〕およびボランティア軍〔the Volunteer Force〕を含む）、スリランカ海軍（海兵隊を含む）、スリランカ空軍、スリランカ沿岸警備隊；スリランカ国家警察；特殊部隊（テロ対策および反乱対策）（2021）

イ 米国国務省「[人権状況報告 2021年 - スリランカ](#)」（2022年4月12日）

スリランカ警察は、国内の治安維持に責任を持ち、2020年11月に発足した公安省の下にある。国軍は国防省の下にあり（大統領が国防の地位を握っている）、具体的に区切られた国内治安の責任を処理するよう要請されることがあるが、一般的には逮捕の権限はない。1万1,000人の準軍事組織である特殊任務部隊は、警察監察官（IGP）に所属する警察組織であり、軍との間で国内治安活動の調整役を担っている。治安部隊の管理は文民が行っている。警察を中心とする治安部隊が数々の虐待を行ったという信憑性のある報告もあった。

ウ ACCORD「[COI 編纂 - スリランカ](#)」ecoi（2016年12月）

2.1.1 軍隊

...

2015年9月の国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）の報告は、「陸軍司令官が軍隊内の最上級将官である。最高司令官である大統領が、陸軍司令官を任命する」（OHCHR、2015年9月、25頁）。スリランカ陸軍のウェブサイトは、「A・W・J・C・デシルバ中将 [A. W. J. C. De Silva]（RWP 褒章、VSV 褒章、USP 褒章、国家防衛大学卒、士官学校参謀課程修了）が、第21代スリランカ陸軍司令官に任命され、2015年2月22日より就任した（SLA、日付なし）。

エ スリランカ陸軍「国防参謀総長代理兼陸軍司令官」（2022年5月23日閲覧）

L・H・S・C・シルバ將軍（WWV 褒章、RWP 褒章、RSP 褒章、VSV 褒章、USP 褒章、国家防衛大学卒、士官学校参謀課程修了、MPhil）は、2019年8月18日、軍総司令官であるマイトリパラ・シリセナ大統領閣下によって第23代スリランカ軍司令官に任命され、同日付けで中将に昇格しました。2020年12月28日、ゴタバヤ・ラジャパクサ大統領閣下は、彼の無私のコミットメントと献身が認め、4つ星将官（大将）に昇格させた。

L・H・S・C・シルバ大将は、より一般的にはシャベンドラ・シルバ將軍 [General Shavendra Silva] として知られていますが、陸軍司令官に任命されたとき、スリランカ陸軍参謀長を務めていました。陸軍司令官に任命されたときは、ガジャバ [Gajaba] 連隊の大佐を務めていました。現在、2020年1月2日にゴタバヤ・ラジャパクサ大統領閣下によって任命された国防参謀総長代理でもあります。

...

オ スリランカ陸軍「[陸軍司令官](#)」（2022年6月1日閲覧）

HLVMLiyanage 中将（RWP 褒章、RSP 褒章、国家防衛大学卒）は、2022年6月1日、軍総司令官であるゴタバヤ・ラジャパクサ大統領閣下により第24代スリランカ軍司令官に任命され、同日付で中将に昇格しました。

...

カ 記事「[スリランカがストライキ発生野中で非常事態を宣言](#)」DW（2022年5月6日）

ゴタバヤ・ラジャパクサ大統領が、金曜日、スリランカに非常事態宣言を発令した。

...

同宣言は、国が国民の不安を抑えるために、国軍に人々を逮捕・こら留する権限を与えるものである

...

キ 記事「[スリランカ政府が2022年国防予算の大幅増を提案](#)」JANES (2021年10月8日)

スリランカ政府は、2022年の国防予算として、2021年の配分額より14%増の3,730億スリランカルピー（18億6,000万米ドル）を提案した。

この新たな予算案は、10月7日に国会に提出された2022年の予算計上法案に盛り込まれたものである。

...

(2) 大統領による現役／退役軍人の政府要職への任用

ア 国連人権理事会「[国連人権高等弁務官の報告](#)」ecoi (2022年2月25日)

B. 軍事化と土地問題

14. これまでの報告書で見られたように、スリランカでは過去2年間、文民政府機能の軍事化が進んでいる〔脚注21〕。政府は、効率性の向上と法律への準拠という観点から、こうした軍人の任用を正当化している。しかし、高等弁務官は、文民の地位が軍当局者の手に集中していることが、国家の民主的統治と長期的性格に影響を与えることを引き続き懸念している。

15. 国防省に加え、外務省、公安省、財務省、保健省、野生生物・森林保護省などいくつかの省庁において、現役又は退役軍人（重大な人権侵害の疑いで関与した者も含む）が権限を持つようになった。NGOを規制する事務局は外務大臣に移管されたものの、国防省はメディアから出入国に至るまで、少なくとも31の他の機関を統制している。例えば、2021年8月には、食糧安全保障と価格統制を確保するための緊急規制の実施を監督するため、ある少将がエッセンシャルサービス弁務官に任命された〔脚注22〕。2021年12月には、陸軍司令官シャベンドラ・シルバ将軍〔General Shavendra Silva〕が、有機肥料の普及と流通を目的とした大統領の「グリーン農業運営センター」の実施をすべく任命された〔脚注23〕。

16. 大統領は、「警察機能のパフォーマンスを強化する必要がある場合に軍隊に頼ることを認める」公安条例第12条に基づく官報告示を継続的に更新した〔脚注24〕。こうした命令は、法執行における軍事化のアプローチを継続し、警察機能における軍隊の役割を拡大するものである。複数の報告によると、北部州では軍の検問所が不当に多く、特に女性に対して差別的な取扱いや検問中の嫌がらせの苦情が寄せられている。

...

※ 脚注の詳細は、原文をご覧ください。

イ Bertelsmann Stiftung「[BTI 国別報告 2022年 - スリランカ](#)」(2022年2月23日)

制度の安定性

...

大統領はまた、繰り返し自らの内閣を脇に追いやってきた。スリランカの新型コロナウイルスへの対応は、いくつかの委員会やタスクフォースの任命を含むもので、選挙で選ばれた議員や文民政府と対をなし、退役軍人と現役軍人に頼っている。大統領はさらに、2020年3月から8月にかけて議会の疎外し、ほとんど反発を受けることなく、違憲なやり方で権力を行使した。2020年8月の国会議員選挙における大統領の選挙マニフェストは、同政党の選挙綱領の基本でもあり、「政府の円滑な機能」を回復するための新憲法の必要性を強調している。これは、「効率性」の名の下に、民主主義的な制度をさらに弱体化させようとする可能性をはらんでいる。

ウ 米国国務省「[人権状況報告 2021年 - スリランカ](#)」(2022年4月12日)

セクション4. 政府の汚職と透明性の欠如

...

殺害されたジャーナリストのラサンタ・ウィクレマトウンゲ [Lasantha Wickrematunge] の娘のアヒムサ・ウィクレマトウンゲ [Ahimsa Wickrematunge] は、1月8日に国連人権委員会に、12年前の父親の死に対する政府の関与の疑いに関する訴えを提出した。国際人権 NGO である「正義と説明責任のためのセンター」は、2009年に彼女の父親が車で通勤中に軍部と繋がりのある殺し屋集団に殺害されたとするアヒムサの申し立てを支持した。この事件は、ミグ戦闘機購入に関する汚職スキャンダルについて、当時の国防長官ゴタバヤ・ラジャパクサが起こした中傷事件で同氏が証言する数日前に起った。

7月27日、コロombo高等裁判所は、Avant-Garde Maritime Services の Nissanka Yapa Senadhipathi 会長とパリタ・フェルナンド [Palitha Fernando] 退役少将に対し、3,550万ルピー (17万5000ドル) の賄賂を勧誘・受領した容疑について無罪判決を言い渡した。この判決は、CIABOC が被告人を告発する際に3人の委員の書面による承認を得られなかったとして、被告人が技術的な誤りを理由に CIABOC を提訴した後、AGD が裁判所にこの事件を取り下げると通知したことに基づくものであった。この措置により、2015年に CIABOC が提起した、ゴールフォート近くで押収された浮遊兵器庫に関連する長年の汚職事件が終結した。5月20日、大統領はフェルナンドを、失踪者の家族を救済する重要な機関である賠償庁の委員の一人に任命した。6月21日、バチェレ高等弁務官は、「最近の行方不明者庁と賠償庁への任命、過去の犯罪に対する調査を阻止する措置が、被害者の信頼をさらに損なっていることを懸念している」と述べている。

(3) 政府による戦争犯罪容疑の軍人の保護

ア HRW「[スリランカ：高官らが戦争犯罪に関与](#)」(2021年2月26日)

3月、ラジャパクサ大統領は、子どもを含む8人のタミル人市民を殺害した元陸軍軍曹スニル・ラトナヤケ〔Sunil Ratnayake〕を恩赦した。同人は、人権侵害の責任を問われた数少ない治安部隊の一人であった。9月、スリランカは人権理事会に対し、軍幹部に対する疑惑は「受け入れがたい」ものであり、「実質的な証拠」がないと述べた。

イ DFAT「[出身国情報報告 スリランカ](#)」(2021年12月23日)

和解

...

2.41 2021年1月の報告書で、バチエレ〔Bachelet〕は「スリランカは依然として過去について国家として否定的な状態にあり、真実を追求する努力は頓挫し、国家の最高幹部らは過去の犯罪を一切認めようとししない」（「メディアと市民社会組織と政府批判」も参照）と述べている。2021年、内戦に関連した歴史的な虐待のいわゆる「象徴的な事例」については、ほとんど進展がなかった。注目される事件の一つとしては、最近退役した国防参謀総長（スリランカ軍のトップ）のラビンドラ・ウィジェグナラトネ司令長官〔Admiral Ravindra Wijegunaratne〕が、2008年と2009年にコロンボで海軍兵がタミル人の若者11人を誘拐・殺害した事件で、目撃者を脅迫し警察の主任捜査官を解任しようとしたとの容疑で、2018年11月28日に再拘置されたことがあった。2021年現在、同氏はまだ裁判を受けていない。裕福な家庭の出身で、身代金目的で拉致されたとされる11人の遺体は見つかっていない。現国防参謀総長兼陸軍大将のシャベンドラ・シルバ將軍〔General Shavendra Silva,〕は、内戦時代の戦争犯罪の告発により、米国への渡航が禁止されている。

...

ウ 記事「[スリランカがタミル人市民らを殺害した兵士に特赦](#)」Aljazeera (2020年3月27日)

スリランカ大統領は木曜日、同国の血なまぐさい民族紛争中に、4人の子どもを含むタミル人市民の喉を切り裂いた罪で死刑判決を受けた陸軍将校を赦免し、釈放した。

スニル・ラトナヤケ〔Sunil Ratnayake〕二等軍曹は、2000年12月の殺害の罪で絞首刑になる予定だった。この事件は、紛争中の虐待に対する稀な説明責任の例として、これまでのスリランカ政府によって取り上げられたものであった。

...

4. スリランカの国会議員がスリランカ軍に及ぼせる法律上または事実上の影響力の有無

ア スリランカ国会「[国会議員に選ばれるための資格](#)」(2022年5月24日閲覧)

憲法第90条は、選挙権を有する者は、第91条に列挙された特定の条項により資格を喪失しない限り、国会議員に選出される被選挙権も有するという基本的な規定を定めている。それらは以下の通りである。

…

2. 警察、陸軍、海軍又は空軍の構成員ではないこと

…

イ スリランカ国会「[2022年予算 - 第3回読書部門](#)」(2021年12月10日)

本日、歳出(2022年)法案の第3読会が行われ、委員会段階の審議が終了しました。

投票が行われ、法案への賛成票が157票、反対票は64票でした。

こうして、2021年11月12日に開始された2022年予算の議事は、本日終了しました。

スリランカ国会議員のスリランカ軍への影響力に関する情報は、本調査回答の時間的制約下で調査した情報源の中からは、見つけることができませんでした。

以上

参照：

(報告等)

オーストラリア外務貿易省 (DFAT) 「DFAT Country Information Report – Sri Lanka (出身国情報報告 スリランカ)」(2021年12月23日)、オンライン：

<https://www.dfat.gov.au/sites/default/files/country-information-report-sri-lanka.pdf>

国連人権理事会 「Report of the United Nations High Commissioner for Human Rights (国連人権高等弁務官の報告)」[A/HRC/49/9] (2022年2月25日)、オンライン：

https://www.ecoi.net/en/file/local/2068655/A_HRC_49_9_AdvanceUneditedVersion.docx

フランス難民・無国籍庇護局 (OFPRA) 「Relations entre le grand banditisme et les politiciens (組織犯罪と政治家の関係)」(2018年8月29日)、オンライン：

https://www.ofpra.gouv.fr/sites/default/files/atoms/files/1808_lka_banditisme_et_politique.pdf

米国国務省 「2021 Country Report on Human Rights Practice - Sri Lanka (人権状況報告 2021年 - スリランカ)」(2022年4月12日)、オンライン：

<https://www.state.gov/reports/2021-country-reports-on-human-rights-practices/sri-lanka/>

米国中央情報局 (CIA) 「World factbook – Sri Lanka (ワールドファクトブック - スリランカ)」、オンライン : <https://www.cia.gov/the-world-factbook/countries/sri-lanka/#military-and-security>

ACCORD 「Sri Lanka - COI Compilation (COI 編纂 - スリランカ)」 (2016年12月)、オンライン : https://www.ecoi.net/en/file/local/1105127/90_1484030949_accord-coi-compilation-sri-lanka-december-2016.pdf

Bertelsmann Stiftung 「BTI Country Report 2022 (BTI 国別報告 2022年 - スリランカ)」 (2022年2月23日)、オンライン : <https://bti-project.org/de/reports/country-report/LKA>

Inter Parliament Union 「SRI LANKA – Parliament (スリランカ国会)」、オンライン : http://archive.ipu.org/parline-e/reports/2295_D.htm

_____. 不当に逮捕された国会議員一覧 (2021年11月30日)、オンライン : https://www.ipu.org/sites/default/files/documents/sri_lanka-e_1.pdf

_____. 不当に逮捕された国会議員一覧 (2017年10月18日)、オンライン : https://www.ipu.org/sites/default/files/documents/sri_lanka-e.pdf

(記事)

ヒューマン・ライツ・ウォッチ (HRW) 「Sri Lanka: High Ranking Officials Involved in War Crime (スリランカ: 高官らが戦争犯罪に関与)」 (2021年2月26日)、オンライン : <https://www.hrw.org/news/2021/02/26/sri-lanka-high-ranking-officials-involved-war-crimes>

AFP/Aljazeera 「Sri Lanka arrests Tamil MP for commemorating separatist rebel (スリランカが分離派反乱勢力の記念を祝ったとの理由でタミル人国会議員を逮捕)」 (2021年9月24日)、オンライン : <https://www.aljazeera.com/news/2021/9/24/sri-lanka-arrests-tamil-mp-separatist-rebel>

Aljazeera 「Sri Lanka pardons soldier who killed Tamil civilians (スリランカがタミル人市民らを殺害した兵士に特赦)」 (2020年3月27日)、オンライン : <https://www.aljazeera.com/news/2020/3/27/sri-lanka-pardons-soldier-who-killed-tamil-civilians>

CNN 「Sri Lanka opposition blasts ex-general's arrest, calls for protests (スリランカ野党が元将軍の逮捕に怒り爆発、抗議を呼びかけ)」 (2010年2月10日)、オンライン : <http://edition.cnn.com/2010/WORLD/asiapcf/02/09/sri.lanka.opposition.arrest/index.html>

Deutsche Welle (DW) 「Sri Lanka declares state of emergency amid crippling strike (スリランカがストライキ発生野中で非常事態を宣言)」 DW (2022年5月6日)、オンライン : <https://www.dw.com/en/sri-lanka-declares-state-of-emergency-amid-crippling-strike/a-61705888>

JANES 「Sri Lanka proposes strong defence budget increase for 2022 (スリランカ政府が

2022年国防予算の大幅増を提案)」JANES (2021年10月8日)、オンライン：
<https://www.janes.com/defence-news/news-detail/sri-lanka-proposes-strong-defence-budget-increase-for-2022>

NDTV 「Sri Lanka Arrests MP Rishad Bathiudeen, His Brother Over Easter Attacks (スリランカがイースター襲撃事件を理由に、ラシャド・バチウディン議員とその兄弟を逮捕)」(2021年4月24日)、オンライン：<https://www.ndtv.com/world-news/sri-lanka-arrests-mp-rishad-bathiudeen-his-brother-over-easter-attacks-2420848>

Reuters 「Sri Lanka police arrest ex-leader's brother on suspicion over funds (スリランカ警察が資金をめぐる疑惑で元リーダーの兄弟を逮捕)」(2016年7月18日)、オンライン：<https://www.reuters.com/article/us-sri-lanka-rajapaksa-idUSKCN0ZY0XC>

(ウェブサイト)

スリランカ国会

_____. The Legislative Power of Parliament (議会の立法権)、オンライン：
<https://www.parliament.lk/how-parliament-works/the-legislative-power-of-parliament>

_____. Powers and Privileges Act (スリランカ社会民主共和国国会(権限及び特権)法)、オンライン：<https://www.parliament.lk/how-parliament-works/parliament-powers-and-privileges-act>

_____. Qualifications to be elected as a Member of Parliament (国会議員に選ばれるための資格)、オンライン：<https://www.parliament.lk/en/members-of-parliament/the-system-of-elections-in-sri-lanka/qualifications-to-be-elected-as-a-member-of-parliament>

_____. 「Budget 2022 - Third Reading Division (2022年予算 - 第3回読会)」(2021年12月10日)、オンライン：<https://www.parliament.lk/en/budget-2022/>

スリランカ陸軍「Commander of the Army (陸軍司令官)」、オンライン：
<https://www.army.lk/commander>

_____. 「Acting Chief of Defence Staff and Commander of the Army (臨時国軍参謀長兼陸軍司令官)」(リンク切れ)